

〔原著〕

1. Fujita, K., Nakamura, Y., Oka, T., Ito, H., Tamura, T., Tagawa, K., Sasabe, T., Katsuta, A., Motoki, K., Shiwaku, H., Sone, M., Yoshida, C., Katsuno, M., Eishi, Y., Murata, M., Taylor, JP., Wanker, EE., Kono, K., Tashiro, S., Sobue, G., La, Spada, AR., and Okazawa, H. (2013) A functional deficiency of TERA/VCP/p97 contributes to impaired DNA damage repair in multiple polyglutamine diseases. *Nature Commun.* 4:1816. doi: 10.1038/ncomms2828
2. Li, C., Ito, H., Fujita, K., Shiwaku, H., Yunlong Qi, Y., Tagawa, K., Tamura, T., Okazawa, H. (2013) Sox2 transcriptionally regulates Pqbp1, an Intellectual Disability-Microcephaly causative gene, in neural stem progenitor cells. *PLOS ONE* 8, e68627. doi: 10.1371/journal.pone.0068627
3. Shiwaku, H., Yagishita S., Eishi Y., Okazawa, H. (2013) Bergmann glia are reduced in spinocerebellar ataxia type 1. *Neuroreport.* 24, 620-625. doi: 10.1097/WNR.0b013e32836347b7.
4. Ikeuchi, Y., de la Torre, L., Matsuda, T., Steen, H., Okazawa, H., Bonni, A. (2013) The XLID protein PQBP1 and the GTPase dynamin 2 define a signaling link that orchestrates ciliary morphogenesis in postmitotic neurons. *Cell Reports* 4, 1–11. doi:10.1016/j.celrep.2013.07.042
5. Barclay, S.S., Tamura, T., Ito H., Fujita, K., Tagawa, K., Shimamura, T., Katsuta, A., Shiwaku, H., Sone, M., Imoto, S., Miyano, S. and Okazawa, H. (2014) Systems biology analysis of *Drosophila in vivo* screen data elucidates core networks for DNA damage repair in SCA1. *Hum Mol Genet* 23:1345-64. doi: 10.1093/hmg/ddt524. Epub 2013 Oct 31.
6. Mizuguchi, M., Obita, T., Serita, T., Kojima, R., Nabeshima, Y. and Okazawa, H. (2014) Mutations in the *PQBP1* gene prevent its interaction with the spliceosomal protein U5-15kD. *Nature Commun.* 5:3822 doi:10.1038/ncomms4822.

〔著書・総説〕

1. 水口峰之、岡澤 均 (2013) Polyglutamine tract-binding protein 1 の構造生物学的研究. *YAKUGAKU ZASSHI* 133, 519-526.
2. 藤田慶大、岡澤 均 (2013) Omics からみた神経変性疾患の病態機序. *医学のあゆみ* 247,401-406.
3. Okazawa, H. (2013) HD Research Around the World: Japan. Past, Present, Future. *HD Insights* vol. 4, 7-8

〔国際学会〕

1. Ito, H., Tagawa, K., Okazawa, H. “HMGB1 as a therapeutic molecule candidate for spinocerebellar ataxia type1 (SCA1).” Neuro2013, Kyoto International Conference Center, Kyoto, Tokyo, 2013.6.20-23 (6/21) (Oral)
2. Tamura, T., Barclay, S, S., Fujita, K., Ito, H., Motoki, K., Shimamura, T., Tagawa, K., Katsuta, A., Shiwaku, H., Sone, M., Tagawa, K., Imoto, S., Miyano, S., Okazawa, H. “Replication-dependent DNA repair in SCA1 pathology.” Neuro2013, Kyoto International Conference Center, Kyoto, Tokyo, 2013.6.20-23 (6/20)(Poster)
3. Okazawa, H. “Brain disease researches and brain bank” Neuro 2013, Kyoto International Conference Center, Kyoto, Tokyo, 2013.6.20-23(6/22) (Symposia)
4. Okazawa, H. “Morphological and molecular changes of synaptic spines in mouse models of PQBP1-linked intellectual disability. “ The 16th International Workshop on Fragile X, Novotel Barossa Valley Resort, Australia, 2013.9.17-20

〔国内学会〕

1. 伊藤 日加瑠、田川 一彦、岡澤 均 第54回日本神経病理学会総会学術研究会「HMGB1 を用いた脊髄小脳失調症1型モデルマウス治療の試み」(口演)、タワーホール船堀、2013.4.24-26 (発表日 4/26)
2. 伊藤 日加瑠、田川 一彦、岡澤 均 第54回日本神経学会学術大会「HMGB1 を用いた脊髄小脳変性症1型モデルマウス治療への試み」(口演)、東京国際フォーラム、2013.5.29-6.1 (発表日 5/30)
3. 田村 拓也、Barclay S Sam、藤田 慶大、伊藤 日加瑠、本木 和美、島村 徹平、田川 一彦、勝田 明寿香、曾根 雅紀、井元 清哉、宮野 悟、岡澤 均 第54回日本神経学会学術大会「脊髄小脳変性症1型における DNA 損傷修復遺伝子の効果;in vivo screening による解析」(ポスター)、東京国際フォーラム、2013.5.29-6.1 (発表日 5/30)
4. 藤田慶大、中村蓉子、岡努、伊藤日加瑠、田村拓也、田川一彦、岡澤均 第32回日本認知症学会学術集会「TERA/VCP/p97 の DNA 修復機能不全は複数の神経変性疾患に関与する」(ポスター)、キッセイ文化ホール・松本市総合体育館、2013.11.8-10 (発表日 11/9)
5. 田村拓也 第六回高次分子機能研究会「神経変性疾患モデルショウジョウバエを用いたバイオインフォマティク解析」(口演)、軽井沢ホテル、2013.9.17-19 (発表日 9/17)
6. 藤田慶大、中村蓉子、岡努、伊藤日加瑠、田村拓也、田川一彦、笹邊俊和、勝田明寿香、本木和美、塩飽裕紀、曾根雅紀、吉田千里、岡澤均 第36回日本分子生物学会年会「複数のポリグルタミン病における TERA/VCP/p97 の DNA 損傷修復機能不全」(ポスター)、神戸ポートアイランド、2013.12.3-6 (発表日 12/4)
7. 田村 拓也、岡澤 均、「脊髄小脳失調症1型における複製依存的 DNA 修復の関与」運動失調症の病態解明と治療法開発に関する研究班 平成 25 年度班会議 都市センターホテル 東京 2014.1.8-9 (発表日 1/9)
8. 田村 拓也、Barclay S Sam、藤田 慶大、伊藤 日加瑠、本木 和美、島村 徹平、田川 一彦、勝田 明寿香、曾根 雅紀、井元 清哉、宮野 悟、岡澤 均 第6回 CBIR 若手インスパイアシンポジウム「脊髄小脳失調症1型の病態を制御する DNA 損傷修復機構」(口演)、東

京医科歯科大学、2014.2.2

9. 藤田慶大、中村蓉子、岡努、伊藤日加瑠、田村拓也、田川一彦、笹邊俊和、勝田明寿香、本木和美、塩飽裕紀、曾根雅紀、吉田千里、岡澤均 第6回 CBIR 若手インスパイアシンポジウム「複数のポリグルタミン病における TERA/VCP/p97 の DNA 損傷修復機能不全」(口演)、東京医科歯科大学、2014.2.2

〔招待講演・セミナー〕

1. 岡澤 均 「神経疾患タンパク質研究とブレインバンク」 第54回日本神経病理学会総会学術研究会 シンポジウム・ブレインバンク、タワーホール船堀、2013.4.24-26 (発表日 4/26)
2. 岡澤 均 「神経変性疾患の分子標的治療を目指して」 横浜市立大学大学院生命医科学研究科 大学院講義 横浜市大鶴見キャンパス、2013.5.20
3. 岡澤 均 「脳疾患研究とブレインバンク Brain disease researches and brain bank」 Neuro2013 シンポジウム、国立京都国際会館、2013.6.20-23 (発表日 6/22)
4. 岡澤 均 「網羅的リン酸化タンパク質質量解析を用いた神経変性病態の解明の試み」 AB SCIEX 質量分析計によるタンパク質発現量解析セミナー、UDX GALLERY NEXT-1、2013.7.17
5. 岡澤 均 「網羅的リン酸化タンパク質質量解析を用いた神経変性病態の解明の試み」 AB SCIEX 質量分析計によるタンパク質発現量解析セミナー、新大阪ブリックビル、2013.7.19
6. 岡澤 均 「認知症の原因解明と治療開発の最前線」日本女医会講演、名古屋観光ホテル、2014.2.15
7. 岡澤 均 「神経変性疾患の共通病態としての DNA 損傷修復異常」慶應ニューロサイエンス研究会、慶応義塾大学、2014.3.22

〔研究助成金〕

- 平成 23-25 年度 厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 「運動失調症の病態解明と治療法開発に関する研究」 課題番号：H23-難治-一般-014 分担研究者 岡澤 均
- 平成 21-25 年度 科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業 研究領域：精神・神経疾患の分子病態理解に基づく診断・治療へ向けた新技術の創出 「ポリグルタミン病の包括的治療法の開発」 共同研究者 岡澤 均
- 平成 22-26 年度 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究 「シナプス・ニューロサークキットパソロジーの創成」 課題番号：22110001 研究代表者 岡澤 均
- 平成 22-26 年度 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究 「発達障害・変性疾患のシナプスダイナミックパソロジーの解明」 課題番号：22110002 研究代表者 岡澤 均

平成 22-26 年度 文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」 『心身の健康を維持する
脳の分子基盤と環境因子（生涯健康脳）』（課題 E） 研究課題名：「脳の正常老化と異常老
化を分岐する環境由来の脳リン酸化シグナルの解明」 研究代表者 岡澤 均

平成 23-25 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究 B 「新規病態関連分子をタ
ーゲットとしたポリグルタミン病の治療効果」 課題番号：23700373 研究代表者 伊藤
日加瑠

平成 23-25 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤 C 「アストロサイト系譜細胞の
代謝異常によって生じる神経病態メカニズムの解析」 課題版号：23500438 研究代表者
榎戸 靖

平成 24-26 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤 C 「脊髄小脳失調症 I 型におけ
る複合体タンパク質プロテオーム解析による分子病態の解明」 課題版号：24500378 研
究代表者 田川一彦

平成 24-25 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 若手 B 「脊髄小脳変性症 1 型への D
NA 損傷修復の関与の解析」 課題番号：24700374 研究代表者 田村 拓也

特許出願・取得状況

発明：脊髄小脳変性症 1 型を予防又は治療するための薬剤

出願者：国立大学法人 東京医科歯科大学

発明者：岡澤 均

特願 2013-214155

発明：アルツハイマー病の診断方法、診断薬、治療薬及びこれら薬剤のスクリーニング方法

出願者：国立大学法人 東京医科歯科大学

発明者：岡澤 均

特願 2013-272189

雑誌編集

学位取得

Chan Li (医学博士)

受賞

難治疾患研究所 優秀論文賞 田村拓也 2013.3.7

難治疾患研究所 優秀論文賞 藤田慶大 2013.3.7

学会主催など

1. 岡澤 均 (座長) 第54回 日本神経学会学術大会 口演セッション「神経再生・iPS細胞」 東京国際フォーラム 2013.6.1
2. 岡澤 均 新学術領域「シナプス・ニューロサーキットパソロジーの創成」 夏の班会議 包括型脳科学研究推進支援ネットワーク 夏のワークショップ 2013.9.1
3. 岡澤 均 新学術研究領域「シナプス・ニューロサーキットパソロジーの創成」 冬の班会議

[プレスリリース]

1. 複数の神経変性疾患にまたがる共通病態(シグナル)を解明 ～認知症、運動失調症などに汎用性のある治療法の開発に期待～ (東京医科歯科大学+文部科学省 脳プロ) 2013.5.8

朝日新聞朝刊 15面 2013.5.27

時事ドットコム 2013.5.8

マイナビニュース 2013.5.8

YAHOO ニュース 2013.5.8

Livedoor ニュース 2013.5.8

ニコニコ ニュース 2013.5.8

2. 脊髄小脳失調症の病態を制御する遺伝子を発見 (東京医科歯科大学+JST CREST) 2013.10.31

日経プレスリリース 2013.10.31

Gooニュース 2013.10.31

マイナビニュース 2013.10.31

YAHOO ニュース 2013.10.31

科学新聞4面 2013.11.22

[その他]

1. 岡澤 均 夢のクスリ ー医療研究最前線ー 『DNA修復阻害メカニズムの解明』、代ゼミナールジャーナル vol 619, No 2, 2013 (代々木ゼミナール)